

大少ナレ事ニ及フ但二十歳未満ト雖モ官署ニ奉職セシメ
給テ受テ或ハ其戸籍ヲ去リ或ハ男女共ニ嫁娶セラルル時ハ
其種消絶ス○第二十九條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ
刑ニ處セラル、時ハ之ヲ止メ其轉給ヲ受ク可キ者ニ
之ヲ給ス○第三十條 軍人死後扶助料ヲ受ク可キ寡婦
孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再嫁シハ復給セザル
兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母及ハ祖父母ア
リテ地ニ之ヲ奉養スルノ子孫キ時ハ其情狀ニ依リ終身
寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ給スルコトアル可シ、其
扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ
其父死後若クハ權利消絶スルコトアルハ轉シテ之ヲ母ニ
給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ
之ヲ轉給ス可シ但父及ハ祖父ハ年五十歳以上其未滿ハ
癡疾及ヒ不具ニシテ業ヲ營ムコト能ハサル者ハ母及ハ祖母
ハ夫ナキ者ニシテ其親レモ軍人死後ノ際年五十歳以上
ニシテ其戸籍ニ在ル者ニ限ル○第三十一條 扶助料ヲ仰
ガントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレ
ハ其後見人若クハ親族ナキ時ハ同郷ノ戸主二名連署ヲ郡區
長戸長ノ與印セシ願書ヲ以テ地方廳ニ進達ス可シ但シ思
給登錄寫帖アレハ之ヲ添附ス可シ、其夫若クハ父戰死其
他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ時ハ報告若クハ死亡證書若ク
ハ他ノ公文ノ内其一ヲ證據 供シ其傷疾疾病ニ起因スル
者ハ該書附シ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ診斷書ヲ證據
ニ供ス可シ但シ地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ他方
官吏ノ檢視證書ヲ添附シ死後ノ原因ヲ詳細證明ス可シ海
軍卿ハ之ヲ調査委員ニ下シ其實質ヲ調査セシメ以テ決定
ス (以下次號)

○陸軍省通甲第三十四號 府 縣
今般陸軍省醫務生六十名召募候條無遺漏管下へ布達シ
入學志願ノ者ニ同請書生規則第十二條揭示之通取計來
ル十月十五日迄ニ軍醫本部へ出願候條爲技依テ軍醫講
習生入學檢査格例及志願者心得相添此旨相達候事
明治十六年九月十七日 陸軍卿代理 參事院議長山縣有朋
(入學檢査格例及志願者心得略ス)

○東京府建内第三百三十八號 郡區役所衛生委員
本年八月當應甲第四十三號布達ニ依リ種痘醫ヨリ通報ナ
シタル時ハ該兒在所之郡區ヲ分別シ各區役所戸長役場
へ通知シ其役所役場ニ於テハ生障簿ニ照シ種痘簿ヲ記入
スへ此旨相達候事
明治十六年九月十七日 東京府知事芳川顯正

叙任賞勳
○明治十六年八月卅一日
任步兵中尉 步兵少尉正八位 大塚 貫一
任步兵中尉 步兵少尉正八位 國司 信
○明治十六年九月十四日
叙從五位 新田 俊純
叙從五位 菊地 武臣

時事新報
文明ヲ愛シテ文明ニ致サルコト勿レ
凡先處戰地ニ待敵者供、健處戰地、而趨敵者勢、故善戰者、
致人而不致於人、ト是レハ支那戰國時代ノ兵家ニシテ而
カモ故國ニテ尤敬崇セラル、孫子ノ語ナリヤレバ今日ノ
世界ニ於テ此種戰術兵家ノ要訣トナセキコトアラザルモ
其論ヲ兵勢ヲ論シテ主客ノ動ヲ觀ルベキ所ナキヤ

非ズ其意謂ヲ凡ソ戰爭ヲナスニハ勝利アルベキ戰地ヲ
擇ビ敵ノ陣取ヲナサス先キコト此方ヨリ陣ヲ取リ備テ立テ
、以テ敵ノ來ルヲ待テ受ルルハ味方ノ兵ハ安佚ニシテ些
ノ骨折モナク其支度モ能ク出來ルコトナリ而シテ其勝利ア
ルベキ戰地ヲ敵ニ取ラレタル跡カラテ俄ニ其戰ニ趨ク者ハ
勿々コトシテ其支度モ能ク出來ズ辛勞太ダ多キトス右ニ
テ主客ノ別早ク分レ勝敗ノ數モ亦豫メ知ラレバシラレ故
ニ善ク戰フ者ハ人ヲ致シテ人ニ致サレズト謂ヘリ、人ヲ
致ストハ人ヲ此方ニ引付ケ我意ノ如ク自在ニスルコトナリ
人ニ致サル、トハ彼方ニ引付ケラレ、トコト致サレズト
ハ即チ其反對コト彼方ニ引付ケラレズ人ノ勝手ニナラヌ
コトナリ、我輩ハ今此語ヲ以テ腕力闘争ノ事ニ適用セント
スルコト非ズ一時仮リ來リテ平和ノ戰爭即チ文明侵略ノ計
畫ニ充テントスルモノナリ
我輩情全世界ノ景況ヲ觀察シテ其形勢ヲ大別スルコト西洋
ハ文明ヲ致シテ文明ニ致サレズ、東洋ハ文明ニ致サレテ
文明ヲ致サズ、概シテ云ヘバ西洋先ニ處テ東洋後ニ處テ
西洋ハ致スモノニシテ東洋ハ致サレ、モノ、如ク主客ノ
分アルヲ以テ今東西相爭ハントスルニハ勞佚ノ差頗ル大
ナリト云フベシ但文明ナル者ハ素ヨリ東西洋ノ別アラズ
一視同仁各國々民ノ取捨如何ニ任スルモノナレバ深ク憂
ルヲ須ヒス只其レ進メテ取ルコトアラソノミ夫レ文明ハ幕
フテ之ヲ尙ベク愛シテ之レニ親シム可ク進メテ之ヲ取
ルルハ其恩德殆ト際涯ナキモノナリ然レモ若シ之ヲ嫌
ヒ之ヲ忌ミ或ハ故ヲコトシテ拒絕セントスルモ其向フ所ハ
天下ニ敵ナク日ニ進ミ月ニ隆ニ歳月流レテ人ヲ待タザ
ルト一般直行前進シテ少シモ猶豫スルトナク其勢力甚ク
畏ル可キモノアリ故ニ何レノ邦國ニテモ國民タル者文明
ヲ致シテ國內ニ普及セシメ大ニ之ヲ利用スルルハ其邦國
愈開ケテ其國民モ亦愈幸福ヲ享受スルヲ得ベシ若シ國民
タル者文明ヲ利用スルコトヲ知ラズ却テ文明ニ致サレテ彼
運動ニ伴フコト能ハズ又更ニ推進壓倒セラレバ困頓狼狽
轉テ不幸ヲ蒙ルコトアラソノミ此場合ニ於テハ國土獨リ文
明ノ境界ニ變シ去リ其國民ハ可憐ノ狀態ニ陥ラントス試
ミニ東印度ノ實況ヲ觀察スレバ以上陳ナル所ノ架空ノ言
ニアラザルヲ知ルニ足ルベシ彼國一タヒ文明人種ノ占據
スル所トナリテヨリ土地日ニ拓ケ物產月ニ殖シ人口次第
ニ増加シ鐵道、電信等々ニ延長シ製造所ノ創立、埠頭ノ修
築又歳々之ヲ見ザルハナク船舶ノ出入商賈ノ景況一トシ
テ隆盛ヲザルナク近年ニ及テハ殆ト歐洲ノ市場ヲ聯
カスニ足ル程ニ至リ舊時ノ面目全ク一變シテ東洋新ニ
文明國ヲ創建セルモノ、如ク之ヲ他ノ東洋諸國ニ比スレ
バ文明ノ程度殆ト高シト謂ハザル可カラザルナリ然レ
ト雖モ其舊主人ナル印度國民ハ歐洲人ノ暴虐ヲ受ケ一國

ノ政權モ半ハ奪領セラレ不獨立國ノ體面ヲ缺損シ常ニ外
客ナル文明人種ニ虐待寄遇セラレ毫モ文明ノ餘澤ヲ蒙
ルコト能ハズシテ日ニ貧困沈淪ノ境ニ陥ルモノ、嗚呼是
レ則チ主客ノ勢彼此顛倒シテ彼レハ先キニ處テ主トナリ
此レハ後ニ處テ客トナリ竟ニ其文明ヲ致サズシテ文明ニ
致サレタルノ果報ナリ、人或ハ文明國ノ印度國民ニ對
スル狀況ヲ視テ彼レハ無道ナリ不仁ナリト評シ罪ヲ文明
國人ニ歸スルモノアリ、雖モ頗ル諷シ甚シキモノト謂フ
ベシ蓋シ文明國人ノ威力ヲ振フハ先ツ戰地ニ處テ主權ヲ
占メ亦善ク文明ノ器具ヲ利用スレバナリ若シ文明國人
シテ文明ノ器具即チ蒸氣、鐵道、電信其他有力有益ノ器械
ヲ放擲セシメテアラソハ餘ス所幾何モアラズ赤手空拳安
ク獨リ文明ノ人タルニアラソヤ乃チ無道ヲ施シ不仁ヲ行
フハ文明國人ニアラスシテ其罪却チ文明ノ器具ニアリ、
文明ノ器具ニ有テズシテ實ハ文明ノ器具ヲ用ルザル印度
國民其人ニ在リト謂ハザル可カラズ畢竟印度國民が今日
可憐ノ狀況ニ陥リタルハ早ク勝利アルベキ地形ヲ擇ビ敵
ノ陣取ヲナサザル先キコト此方コト陣ヲ取リ備テ立テ敵ノ
來ルヲ待テ受ケザルニ由ルモノニシテ其敗亡ニ瀕シ勞役
沈ムモ亦甚ク怪ムベキコト非ザルナリ
印度ハ東洋ノ一部ナリ一部ノ一國文明ニ致サレテ他國ノ
附庸隸屬トナルモ未ダ東洋全面ノ輕重ヲナスニ足ラザル
ガ如シト雖モ又顧ミテ東洋亞細亞ノ一大國ナル支那ヲ見
ルモ亦甚ク前途ニ憂慮スベキモノアリ該國ハ西洋諸國ト
交際日淺キコトアラザルモ未ダ甚ク親密ナルニ至ラズ全然
舊世界ノ狀態ヲ保存シテ獨リ自ガチ尊大ニシ更ニ進メテ
文明ノ器具ヲ採用スルコトナキヤ(近來砲臺ヲ築キ軍艦
ヲ購ヒ兵器ヲ造リ電線ヲ架スルガ如キ稍進メノ計アルコ
ト也)其内ニ備ル所未ダ全ク整ハズ一モ文明ヲ致スノ計
アラズ故ニ其國富強ナラズ其民活潑ナラズ其業昌盛ナラ
ザルナリ今や印度ノ如ク政權ヲ奪ハレテ外人ノ爲メニ虐
待寄遇セラレ、ニ至ラズト雖モ其他國ノ侮ヲ受ケ國權ヲ
削ラル、モノ少キコトアラズ但其甚シキヤニ至ラザルモノハ
外國ノ交際未ダ親密頻繁ナラズシテ當代文明ノ波動切ニ
感觸セズ且其境土廣大ナルガ爲メ普ク各地ニ波及スルコ
ト至ラザルヲ以テ一時ノ僥倖倖倖ノ眠ヲ貪ルニ過ラズ今後
交際愈親密ヲ加ヘ往來愈頻繁ナルニ及バハ理勢ノ當然ナ
ルコト尙ホ保守自重ノ計ヲ維持スルルハ早晩文明ノ傳播ヲ
免レズシテ印度ノ覆轍ヲ履ムニ至ルモ亦未ダ知ル可カラズ
ルナリ支那四百餘州ノ男兒夫ノ孫子ノ語ヲ忘レタル者
ク之ヲ知ルモ遠ニ活用スル能ハザルカ (未完)

雜報
○寺島公使歸朝 同公使には歸朝ト命せらる、彼の歸朝
る風は會て本紙上ノ記事セシク此報は念實にして既に